

26年1月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 12月20日～ 26年1月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		26/1月	2月	3月
伐採動向	スギ	8.3	8.3	0.0
	ヒノキ	25.0	12.5	12.5
	カラマツ	25.0	25.0	25.0
	エゾ・トド	100.0	100.0	100.0
出荷・販売動向	スギ	25.0	0.0	0.0
	ヒノキ	12.5	12.5	12.5
	カラマツ	25.0	25.0	25.0
	エゾ・トド	100.0	100.0	100.0
手持立木在庫動向	スギ	0.0	0.0	12.5
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	25.0	25.0	25.0
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0

スギ伐採動向は1月のやや増から2月のやや減を経て3月には横ばいに、ヒノキ及びカラマツは減少基調で推移、エゾ・トドは増加基調で推移。

スギ丸太の出荷・販売は1月の増が、2,3月には横ばいに、ヒノキ及びカラマツは減少基調で推移、エゾ・トドは増加基調で推移。

スギ手持立木在庫は1,2月横ばいが3月には増に、ヒノキは横ばい、カラマツは増加基調、エゾ・トドは減少基調で推移。

モニターからのコメント

(伐採動向)・トドマツ間伐材は需要多く積極的に伐採するので増加、カラマツ間伐材も需要多いが、トドマツ間伐材を優先して伐採するので減少。

- ・スギ、ヒノキの間伐主体で伐採。年末にやや買気が落ち、初市も様子見。
- ・前月に続きスギ、カラマツの原木不足が続く、伐採は強気。

(出材・販売動向)・トドマツは需要多く販売増加、カラマツは伐採しないので減少。当地区では運搬会社2社減り、販売に苦労する可能性。

- ・スギ、ヒノキの材価高いが自伐林家はほぼなくなり、素材業の出材が主体で材が高くなっても出材・販売は一定量のまま。
- ・スギ、ヒノキとも年度末に向けての出材減。
- ・スギ、ヒノキ原木不足は前月と同じ、販売、出材は強気。価格は並材で1,000～1,500円/m3の上昇が見られる。

(手持ち立木在庫)

- ・トドマツは減少傾向、カラマツは伐採予定なく横ばい。
- ・手持ちの立木在庫はない。
- ・強気の買い入れ。